



秀吉が戦で使用したと言われる陣鐘



円照寺の境内と旧境内では、丹精込めて育てられた四季折々の花々が迎えてくれます。その時期だけの特別な彩りを見つけてみてください。



現在の観音寺は、志方城落城の後、天正十五年(1587)、宝岩宗珍和尚が城主の墓碑を守るために城の本丸跡に禅寺を建立したのが始まりです。



④ 観音寺 (志方町志方町720)

室町時代、播磨守護であった赤松氏の家臣・榎橋(くしはし)氏が築城した志方城跡。志方城は1578年、城主・榎橋伊定(すけさだ)が、織田信長に反旗を翻していた三木城主・別所長治(べっしょながはる)に従ったため、羽柴(豊臣)秀吉の攻撃を受けて落城しました。また、伊定の娘・光(てる/幸圓・こうえん)は、秀吉の軍師として知られる黒田官兵衛の妻となり、後に福岡藩主となる黒田長政の母となりました。

春の心地よさに包まれながら、志方のまち歩きをぜひ楽しんでみてください。



登山道はよく整備されており、春の日差しや爽やかな風、野鳥のさえずりに包まれながら気持ちよく歩けます。道中には「二の丸跡」や「櫓跡」など、歴史の面影を感じられる場所も点在しています。

山頂からは市内一面を見渡すことができる眺望が広がっています。播磨平野から遠くの明石海峡大橋、淡路島も見ることができます。ベンチも設置されているので、お弁当を広げて絶景ランチはいかがでしょうか。



整備された登山道とはいえ、所々に段差もあるため歩きやすい靴や水分補給の準備は必須。体力に不安の方は、休憩を挟みながら進むのがおすすめです。

③ 円照寺 (志方町廣尾1029)

「花の寺」として知られる円照寺は、四季折々の花が植えられています。境内には、明応7年(1498年)の年号が刻まれた銅鐘があり、この銅鐘はもともと山口県の上野八幡宮にあったもので、秀吉が島津氏との戦いで使用したと伝えられています。その後、秀吉が京へ戻る際に捨てられていたものを志方八幡宮が収めました。鳴りが悪かったため、円照寺に納められたとされています。

